

## 令和3年度 第2回ミライニ運営評価審議会の概要報告

日時：令和4年3月28日（月） 午後2時～午後4時30分

場所：ミライニ3階研修室

出席：阿部建治委員（会長）、眞島裕委員（副会長）、矢野慶汰委員、西村まどか委員、  
本間俊美委員、船越伸委員、佐久間一徳委員

鈴木教育長、池田教育次長、岩浪図書館長、阿部文庫長、榊谷館長予定者、  
門田ミライニ開設準備室次長、大井ミライニ開設準備室次長、眞嶋主査、  
菅原調整主任、高橋調整主任、長南主事

欠席：金子尚委員、榊原有友子委員、佐藤佳奈江委員

傍聴：3名

### 1 開 会

### 2 会長あいさつ

### 3 教育長あいさつ

### 4 報告・協議事項

#### (1) 令和4年度ミライニ事業計画について

資 料：ミライニでの中央図書館オープン行事等について（説明 館長）

資料1：令和4年度ミライニ事業スキーム（説明 館長予定者）

資料2：令和4年度ミライニ事業内容案（説明 館長予定者）

委 員： 夢と希望があるワクワクするような内容だ。資料1にある「にぎわい創出  
検証事業」中 Three Action として、M I R A I N I × Art、Local  
Promotion、Sport という用語が縦に並ぶと頭文字が A L S と読める。順番  
の組み替えについて再考を。

館長予定者： 順番を変えたい。

委 員： 北前船寄港地マルシェについて、これは物なのか。北前船が運んだ文化も  
たくさんあるが、北前船の功績、役割等文化面のところほどの辺で強調さ  
れていくのか、それも含んでいくのか。また、オープニング事業が終わる  
と今度は自主事業が主になっていくのか、別のものも考えているのか。

館長予定者： 北前船寄港地マルシェについて、現状では文化面は考えていない。

にぎわい創出を中心にして物の交流というものを再現してみたいと考えて  
いる。オープニング事業については、期間を少し長くとり、オープニング  
の冠を付けていきたい。この考えで自主事業である図書館総合展等に当て  
ていきたい。おそらく今年度はオープニングを意識した事業展開となる。

## (2) その他

委員： これらの一連の事業の計画について、発信はどのようにしていくか。

館長予定者： 発信については、まだ十分な念査はしていないが、従来型の広報、パンフレット、チラシ等々があるが、それだけでは不十分であると考えている。最近はSNSの活用をどうしていくかが大きな課題。事業名でいうMIRAINI workshopの中でインスタの講習会を開くことを考えている。インスタ発信を中心としていかに若い層に訴えていくかを目指さないといけない。実はミライニのインスタのフォロワーはまだ3桁台。これを3桁から4桁へとなればほぼチラシは要らなくなる。イベントはそれだけで十分に発信できる。それが主流となっておりそこを中心に情報発信を検討していきたい。

会長： ここはすごく賑やかになると思う。この8月から、るんるんバスがこれに向かってルートを変えることを市で考えているようだが、お年を召した人がいっぱい来ると思う。冬になっても、老若男女皆が来てくれるようなものをイベントに入れていただければありがたい。

事務局： 年間事業計画の中に、高齢者の皆さんからも参加していただけるようなものを、居場所づくりができるようにというご意見だったが、提案したスポーツの取組み、例えばヨガ、体づくり等でもいろんな年代の方から参加していただけるプログラムづくりをしていければいいと思う。また、そういった方々への情報発信も引き続き努めてまいりたい。

会長： ここはビアホールにはならないか。

事務局： 計画の中にはないが、昨年度先行オープン以降館内をご覧いただいた方からは必ずその話が出る。事業の中でやることは今のところ想定はしていない。ただ、A棟管理組合の中で、ホテル事業者、レストラン事業者と連携をするような事業がいくつかこれから出てくると思うので、そういった中で、飲酒を含んだ事業をどうできるのか、それぞれの施設でどう役割を持ってできるのかというところで検討していきたいと思う。

委員： 例えば、絵本作家の原画展などこの部屋を見てもとても良いと思った。若くていろんなものをつくっているような方も酒田にもおられるが、自分の作品を展示したい等と市民の方々からここをこんなふうに使いたいといった希望があった場合には、それを受け入れていただくルートというのはどうなるか、今年度事業の隙間にそういうことが可能なかどうか。また、私は絵本の研究会を開催しているが、この図書館のすばらしさを見学しながらミーティングをしたいと思ったときに、場所を貸していただけるのか。

事務局： この3階の研修室は2部屋に仕切った形で一般の皆さんに貸出しを行う。予約の受付開始は4月5日から行う予定。作家、制作活動をしている皆さんからここを発表の場で使いたいという問い合わせをいただくことがある。お貸し

できる部屋はここ3階だけになる。図書館の運営の中で、指定管理者とお話をさせていただきながら、いろんな事業の中で、例えば、ワークショップで市民の皆さんといっしょになって、その講師で入っていただく等、そういった関わりを持つことで結果としてその創作物の発表につながるようなことはできるのかなと思う。まだこれからスタートとなるのでご相談をいただきながらいっしょに考えて、皆さんの文化的な活動を支えられるような取組みができればいい。

館長予定者： 若干補足をすると、絵本作家の原画展については、事業として「絵本作家講演会」の中に埋め込むことが可能かと思う。また、市民の皆様とこのミライニがいかにパートナーシップを組んで事業を展開していくかは重要な課題だと考えている。我々指定管理者として市から一定程度の指定管理料を、事業費も含めて頂戴している。ただしこれは空天井ではなく限られた枠があり、その中でしか事業はできない。この提案事業もその予算の中でしかできない。さらにできるとすれば方法はいくつかある。一つは、皆様から参加費をいただいて収入を我々が確保して事業費に回す。また、企業の皆様から協賛金等をいただいて事業費をつくり出す。もう一つは、委員が仰ったとおり様々な団体とパートナーシップをとる協定、施設運営においてはボランティアということよりもどちらかといえばパートナーシップをとる、いっしょにやれるという協力関係をつくる。そういったものを進めながら、その方々が主催となって我々ミライニ側と市の教育委員会が共催という形をとって、皆様が全面に立った事業を我々が応援できるといった仕組みを、今年一年かけて検証しながらつくっていけば、我々だけでなく市民の皆様の思いをいかに実現できるかという場所になれるかなと思っている。その実験が「まちづくり本気のワークショップ」の中で、このエリアマネジメントスクールに参加された皆様を中心に、やりたいことをできるかどうかを検証していきながらパートナーシップの枠組みづくりをしていきたい。

委員： 保育園の4、5歳児を歩かせて図書館に見学に来たい。急にいっぱい来ても大丈夫か、予め連絡した方がいいか。

事務局： これまで中央図書館でも、例えば市内各小学校の2年生が春の一定期間に見学等に来られる機会があった。そういった機会があればミライニの方に連絡をいただければありがたい。重複がなく丁寧にご案内できると思う。

会長： 小学生をスクールバスでこちらに連れてくるということはなかったか。土門拳記念館や美術館に、小さい時から一流のものをみせようというプランがあったと思うが。

教育次長： 今年度、土門拳記念館、美術館でやり始めた、「スクールプログラム」という事業。小学校5、6年生、中学生がその授業をそこで行うというもの。

事務局： 先行オープン期間中もバスで各校から見学に来た。ミライニの場合は見学が中心になると思うが、今後は、例えばまち歩きや観光の勉強のため等といっ

た目的で各学校の教育課程の中で判断されるものと思う。

会 長： 小中学生の力をどんどん図書館の中に入れるということは重要なことだと思う。その都市の教育環境の良さは図書館の入込数でわかると新聞にあった。

事務局： 指定管理者の方から事業計画が出たが、これまで進めてきた市の図書館としての活動として学校連携等の学校教育への支援事業を行ってきた。今後も引き続き行われるものと思う。例えば、学校の総合学習のために図書館から資料を提供できるような、学校への巡回文庫ということでこちらから資料提供できるような活動も行っている。学習の深度を深めていくために、そういったところをもう少し掘り下げていくことは、今後学校関係者との協議の中でできていくと思う。

## 5 講 演

### 「魅力あふれる新しい図書館像」 ～ミライニの“近未来”を考える～

〔講師〕 青山学院大学 教授 野末 俊比古 氏

《概要》

“図書館”から“プラットフォーム”へ

- (1) 図書館が“提供”しているもの
- (2) 情報を利用した行動（活動）
- (3) オンラインをめぐって
- (4) (情報による) “問題（課題）解決”

図書館ができること／すべきこと

- (1) 利用者像をとらえ直す
- (2) 利用者を知る
- (3) ニーズをつかむ
- (4) 資源を活かす
- (5) 環境を活かす
- (6) ICTを使う

利用者とともに“進化”する図書館

## 6 その他

なし

## 7 閉 会